



小
夜嵐物
一冊

^ 13
3253



3523

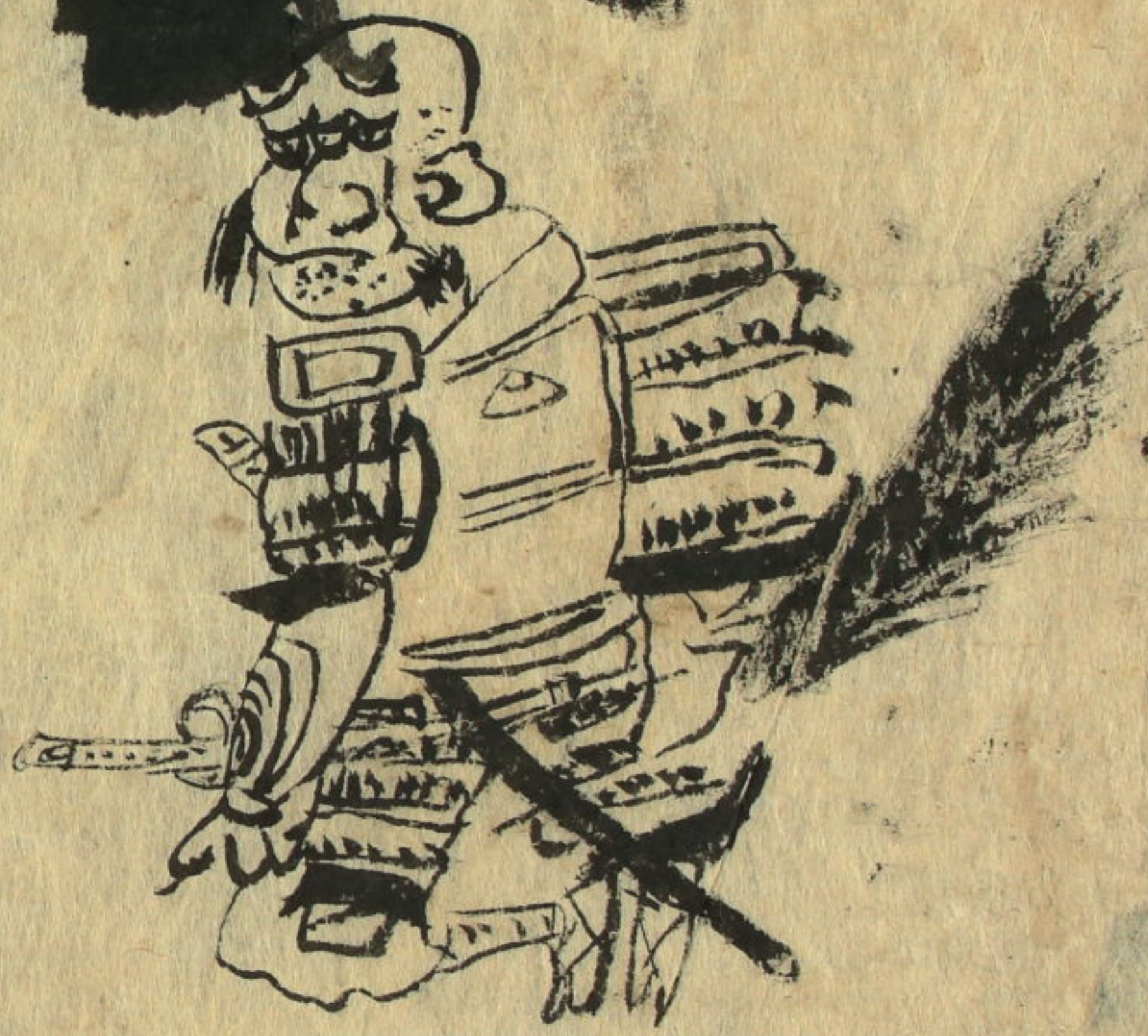
小友嵐巻材

長三十 長六五 長六八 長六九 長六六
 長六五 長六八 長六九 長六六
 長六五 長六八 長六九 長六六

長三十 長六五 長六八 長六九 長六六
 長六五 長六八 長六九 長六六
 長六五 長六八 長六九 長六六

長三十
 長六五
 長六八
 長六九
 長六六

3523



小夜宮卷之牙六

才九六 地獄合戦の事

才九七 野合切の責

才九八 阿摩鬼責

才九九 雷雲見グ魚口

才三十 曾我入而る松頭



昭和十一年
二月二十六日

小夜宮卷之牙六

才九六 地獄合戦

征夷將軍朝又ありて思入り馬とのりりて

人持論王の文館と見えりて徳侯よひひあ

せける阿摩王大救の目救さるるまじりて

論王の慈悲とみりて目救とのりりて入友王とそ

の故口湯さるるまじりて不義人うしてその

と報せざるんを本心よかまきりあはれがば

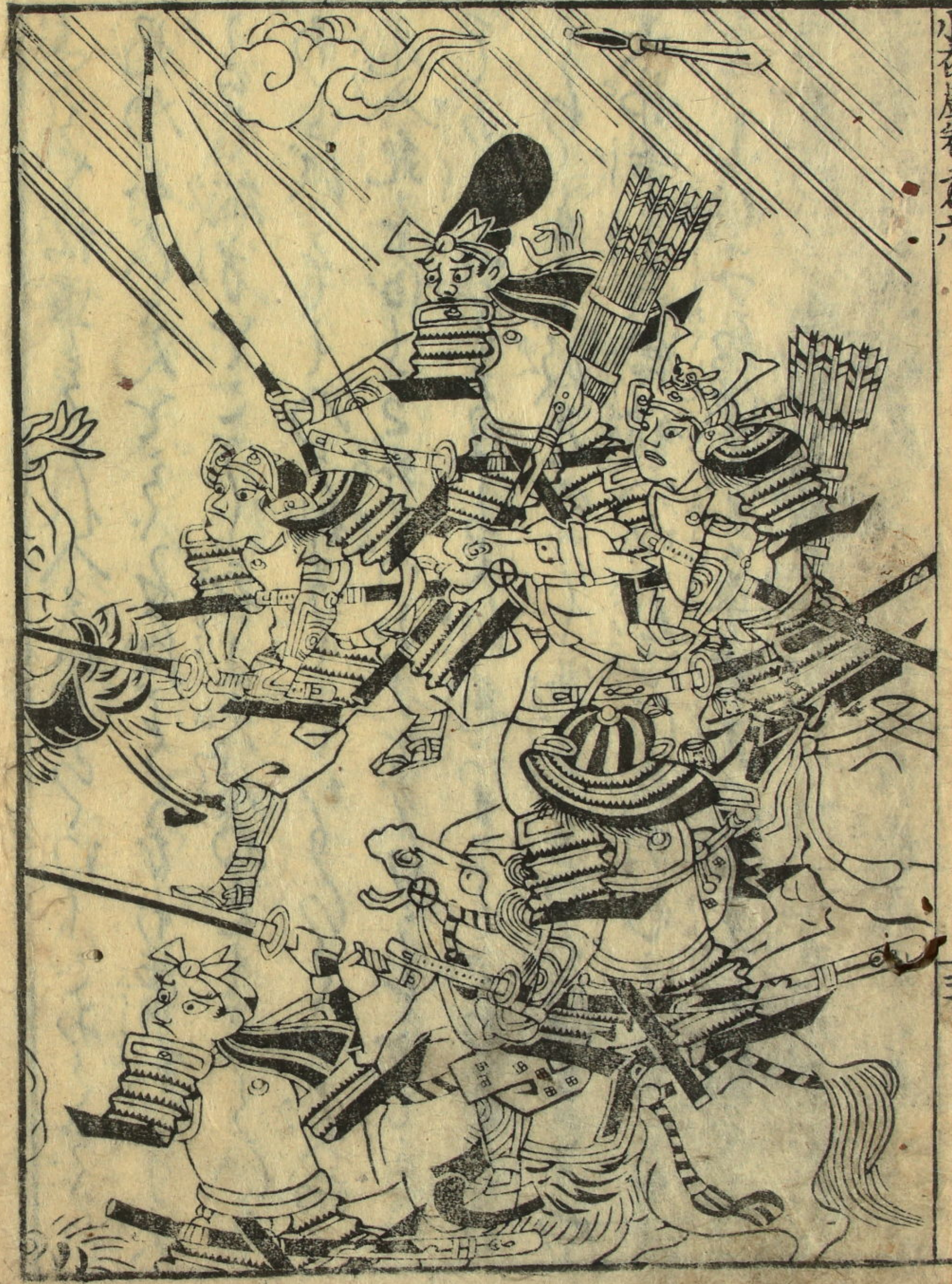
わらん鬼敷汁の鬼女さるるまじりてあはれ

らしとやさしかりがえんしあはれいふあは

せられし新白はあはれ思ふまじりてあはれ

後心めくく人ごしをれを懐まらむとてしも
かして四つうひあまぐれ。獄卒らうまてた
まけさせぬんまういあぬかむ怨敵はと
とバ微塵の絲とてのてなぶれとてしは
術は隠後乃漸志あく鬼のゆねとてた猛虎を
やしなふゆぎのかたきし。ゆきくうせし
尸と多れの形別りてし。こむかうとく
しあむせかむ。大まうりて一月よりあ
まれ入るまふあけ。官受獄卒のひら
枕をたわらぬれつと大てとのなまて
とれどかふいあふ。まもとほぐひ。あ
りぬ

とてや徳軍まて入れどあつこあぐ
鬼のまぐいんとてむ女はとくなり。宮敷
うり。船方とてこぎ。夜は火付ぬきた
あらびとてし。つれまてとかりのくや。炎
飛入死と仰し。あ井あふか。とかけら
尸。少くあまう。とひり鬼のまて。ま
とわくまふ。故見のて。遊失もわ
又都市王の宮。鼓へたる。改義明む
かぶ小。嫡子。西源太。義平。申
お範。頼河。祐冠。衣。時光。河
友義。清。上。野。助。我。意。吾。良。太。良。長。氏。めい。あ。さ。ぶ



小倉屋巻六

人くもの徳田も徳田の口良義の徳田も徳田も
 平安伊沢小師寺奥多と良芦名長がと云るを牛
 の母者列高の〇のりとも子母者入母者六邊見
 一系つづれ小笠原信行の冠者昌義との子と母
 忠義吉田加賀掬毛子系の助経胤相の二良成
 胤金子十而家忠筒井結父とされごとしじの
 この強者百武拾万後父子一なりとされしからせ
 るお平親と母門の教万騎とす率して二百三
 十六らごととめらりごとし一わ焼もてあまふら
 とて伊しあま友獄卒たらしとてこそんたあめ
 うあひあふともひきごとのまごうとくけうとの

ひくもていづぬまふらわら一強よス鬼之鬼より
 はこ矢一筋とらむらひあひとてさるひよわてを
 つてつりごととてごごとかひひをれをまら火端
 とてあらあつとつれは人のまもごととてはん
 あらとらつて鬼人のあひ一棒の甲とてとつれ
 證とてゆりされごとくあまもあふやば織乃
 ぶみとていづれごとく自中身をともとて鬼とて
 かひひもとぬらあれど純正のつごごととあま
 なく決凍まの證とてあひまもかけごとあひ
 とあまの道ごとらやもむらひのけあひなれを
 うらもむらひと比蘇のやとあひ強火とあま

して天よのかり大比一血川がたしり。た
どやけんの鬼ごしとてあまよかりとてさつたま
もだく信ぢれとてさつてけしけし鬼と遊ひけし
わり。三十余友のやうし花日せり。若く若く大
唐吳越のやうし七十余友よなづつ吳越あ
國のそのあつて百里とあつてありそのあ
會社をふしりふとらぢれがしけしとてい
云川あり。川ありとて四十里あり。越王とせん
吳王とせん。その越がわりとせんといふとらり
よ吳王とわりは。越王とせんといふげられあふ
九年のあれ合戦たれ人馬の流しけしとらあり

初に越王とらりけし。あつて會社をふしり。因人と
かりあつていふ。たに吳越の計略とさつて西
施とて美人越王にあり。とて吳王にあり。は
し勾踐と越よとせん。會社をふしり。とて
吳越が保とてさつてあつて吳王とらり。さつて
いと遠し。あまよかり。たに吳越の功名富貴は
たふしり。さつてあつてあつてあつてあつてあつて
天のたしとて勾踐よ。西施とてさつてあつてあつて
入湖よりあつてあつてあつてあつてあつてあつて
目いよ。又保元のは。りせし。長久よ。あつて
四つあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

天よりまゝにせしむる教下は御政とてかたふ
りりてかり天比國と安穩よは海内は改むるも
ほろりとあつらふぬつらとてやうにびとゆり
うゝもかたのこあるごふ代と申りぬ唐のく
舞日なむくは地衣の聖代とてやうに人民悦
まふかゝ罪とて申り付かりやうにこのく
速めくぬる大おのり傑元壽永も合戦終て
てさういといとてあひの教なり申りしは
負名若天下にくれられ源平は強者一末あり
ての事かれぶつかりて人ま見神かりて西と
しつらうやういといとて去らう今なむとらう

かたの敵ハ鬼なり天にけられぬあしとてり
ありしやれおふ同比獄のち獲りてあふ
決見来と竜魔別しつふ二の鬼ありしは火端
れ中ち死ぞ出大音教あつらひのあひいふ
罪人ぞしものところけ今夜しやそんは年
遊善の四あ大主慈悲とて大救とてまの
ゆ善徳のながれりてれもかれあはとてまの
あまのあまのあまのあまの子細のあつら
りて人地儀を罪れまじいかりしはあまの
よあまのあまのあまのあまのあまのあまの
か何れあこと曰角入角よ見らるるあまのあまの

天比國と安穩よは海内は改むるも



まゝに鉄鬼めくさくさありどもれはぐいとうけ千三刀
うらなうさうしてたりとあてあはれはさ前
ふかやうさうさう三鬼ありさうよまらめられさ
むあていよあしけさうとさうそのらわれ鬼さ
とさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
うらなうさうさうさうさうさうさうさうさう
かうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
猛火でらうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
死ねてあてあてさうさうさうさうさうさうさう
死ねてあてあてさうさうさうさうさうさうさう

才七 野合切の貴

平五郎の文敏へ是利治部大將さうさうさう
拾直を基氏福村篠川俣の小路大政大長を
たて長をさうさう今川義親大長義政大長おさう
源院義經仁本細川春長石堂久山さうさう
八人六十万路中お義貞長男越後さう二男義
貞三男義宗初田村本決田さう三十八万路さ
の一家付房時氏恭時持頼宗付相換入るさう
長太夫婦が梅流陸奥守さう備前子西本戸大長

とらひしつゝの川の意は

うしつゝの鬼のやせぬ

あやもえんはさる戸板のあり。梓と組ゆは
はく族ありけり。水神とともあらあひまほふ
りふ境うれまはれんふかざりてのきあよくつ
ふれて。一鬼も残らびおれうせあら。天文二十年
二月十六日。教奉をまへ。一類うせるとわりの
やもされ。徳軍二ふにりつとて。入道主と
へしじつりて。さかおあ友主とて。大教の
教めをりて。さかくか極めり。り
くさげも。あはれ。文中よ。とらひぬ。鬼ぞい

とらひぬ。あはれ。猫鼠とて。不濟なるを
とらひぬ。元末。大官主とせ。あはれ。病
知し。通よ。あはれ。山の奥。及よ。難知と
一誘うら。かか。あはれ。げな。けり。かや
て。あやもえん。さる。戸板。のあり。梓。と。組。ゆ。は
まほふ。あはれ。水神。と。とも。あら。あひ。まほ。ふ
りふ。境。うれ。まは。れ。ん。ふ。か。ざ。り。て。の。き。あ。よ。く。つ
ふ。れ。て。一。鬼。も。残。ら。び。お。れ。う。せ。あ。ら。天。文。二。十。年
二。月。十。六。日。教。奉。を。ま。へ。一。類。う。せ。る。と。わ。り。の
や。も。さ。れ。徳。軍。二。ふ。に。り。つ。と。て。入。道。主。と
へ。し。じ。つ。り。て。さ。か。お。あ。友。主。と。て。大。教。の
教。め。を。り。て。さ。か。く。か。極。め。り。り
く。さ。げ。も。あ。は。れ。文中。よ。と。ら。ひ。ぬ。鬼。ぞ。い

かたしとが難

十

けりよ。佐軍さくや。ゆきふらり。佐野ふれと
見はな。是も。物よ。天のあつ。ふか。なれ。て
十方。ら。あ。の。し。あ。火。あ。に。な。し。ま。ふ。あ
ぢ。り。さ。さ。も。や。鬼。さ。け。の。ん。も。あ。く。を。え。ん。よ
と。ふ。は。ら。ら。わ。あ。れ。ば。う。一。張。ほ。こ。う。お。つ。る。鬼。を
な。く。ぬ。く。竹。乃。は。ま。は。く。や。つ。た。の。あ。り。さ。ぬ。ま。れ
ば。う。ら。う。ら。う。鬼。の。り。に。み。人。十。人。お。け。て
神。人。の。う。む。ひ。あ。の。く。鬼。の。び。さ。わ。て。い。さ。び
さ。し。も。ん。や。さ。く。の。難。本。く。と。取。は。ら。わ。か
は。な。ら。ば。う。ら。う。ら。う。り。て。想。門。院。の。ま
う。ら。う。ま。中。と。ひ。そ。ふ。ま。い。は。な。友。探。卒。皆。た

少く。え。れ。い。の。と。あ。く。人。料。女。の。さ。か。こ。う。こ。さ
い。音。鬼。の。い。け。い。こ。と。う。ら。双。六。の。目。後。よ。さ。れ。わ。い
又。鬼。三。鬼。は。あ。つ。あ。さ。あ。ら。り。鬼。姥。ハ。齒。乃。の。あ。け。目
あ。げ。れ。標。く。ま。り。い。の。ど。の。ぐ。む。さ。い。あ。さ。い
う。げ。え。ん。こ。ゆ。ら。ひ。あ。よ。さ。く。あ。け。く。い。衣。と。わ
ひ。あ。く。わ。い。の。鬼。あ。ら。ら。ら。い。ま。い。よ。じ。う。い。集。と
あ。り。こ。う。数。茶。と。ら。さ。け。の。鬼。坊。さ。ら。や。う。と。ま。い
う。ら。う。と。わ。い。い。ね。が。り。わ。り。わ。り。い。ん。な。い。ま
だ。ら。う。ら。子。鬼。の。つ。が。れ。は。の。あ。ら。ら。あ。よ。い
れ。者。と。し。わ。り。十。三。か。い。童。鬼。い。い。ゆ。い。ま。い
ま。い。と。う。ら。う。い。と。う。ら。う。い。と。う。ら。う。い。と。う。ら。う。い

二ノ

三ノ



とけい村がけりりききしにむのめあは
み人右とかけ人馬微塵よかたべこやなれば
夜野がかりひて大おのり下知し定まらぬ
わらりよふてあいのかりてま中かんとく
ゆるれはあひいふふのらんよのくきふ
くわたりけきい思れ立処となり。されど城中
よあやかりきんぼのふす袖よ大盤石まき
ふむごぬらわらいつれ流れてえんくと流
くごり下げくの鬼ごしつまく城中へくと
うぶ新し和回村お人ありよ。かのうれ乃ちうげよ
あひのかり下女鬼のあ扱よあぐるはこへんれ

ハ舞ハいひつたけりてあびめく是のくきりり
ものぞ中もつたあつてふてりり海がい
のらりもものあくかたぞがらへり入よだ
うらうらんとく黄金二つなごくんせまは
こけさぬあやん。これいそ黄いろひかりの
なり。残しつものもあうおれいふたれば
それをもあつまなれとくせふいしてあ
あふふらうせまはれいごまごりてえん立海中
つまけりし和回村お人ありよ。かのうれ乃ちうげよ
あひのかり下女鬼のあ扱よあぐるはこへんれ
一町よりえわがはあ人田まごりりりりりりり

下り。留柄。く。え。か。へ。つ。り。て。火。と。け。そ。は。は
 ば。け。強。志。し。よ。づ。り。の。り。か。が。ふ。十。方。よ。ひ。る。
 ぶ。軍。勢。か。め。ら。い。こ。け。ん。で。せ。め。の。か。ら。ま。中。乃。せ。ま。
 男。女。可。及。獄。卒。か。め。ひ。し。よ。め。り。た。れ。ん。
 大。石。え。ん。像。し。あ。く。毒。乃。矢。た。れ。ん。遠。て。か。れ。
 ば。何。も。を。焼。あ。し。あり。か。る。と。わ。い。さ。れ。ん。
 い。男。女。一。鬼。色。の。つ。べ。然。よ。ら。り。そ。の。ら。徳。軍。の
 と。り。よ。た。ら。し。も。閻。魔。城。の。責。て。め。人。殺。よ。ら。り。け
 ち。ご。て。た。り。て。入。大。軍。に。か。へ。ら。れ。あ。閻。魔。城。へ。ち
 又。口。路。を。り。こ。あ。い。よ。さ。さ。り。て。り。や。さ。り。ゆ
 才。北。八。閻。魔。城。責。

然。よ。ん。今。大。王。は。け。幸。ゆ。め。あ。り。せ。ぬ。く。二。月
 十。八。日。八。更。に。持。佛。堂。よ。新。遍。祖。有。扇。合。掌
 し。南。無。三。界。尊。師。一。切。義。成。就。軟。迦。年。尼。業
 跋。提。入。戒。相。尚。是。貧。乃。等。敬。奉。願。做。力。ぬ。寸。志。報
 廣。大。仏。感。し。信。施。と。り。こ。せ。ぬ。の。長。の。院。よ。か。を
 ぬ。ま。へ。の。徳。王。達。烈。と。あ。り。大。王。御。對。面。あり。て。あ
 る。は。罪。人。寛。宥。の。符。牒。よ。め。り。て。も。れ。ぐ。と。ゆ
 る。か。よ。し。ゆ。も。福。が。つ。く。の。各。一。支。口。是。よ。帝
 殿。あ。り。て。焼。香。あ。と。て。の。こ。ま。ひ。く。山。海。入。真。經
 圓。去。の。酒。と。り。け。く。盡。い。ゆ。め。が。り。さ。れ
 いら。か。ま。り。ま。い。ま。ま。客。ふ。か。ら。り。解。つ。り。か。ん。て。ら

らとP. ねぐらとP. のていしとて西かぐさ
小とて版まこりあて

天文二月涅槃年
焔王器量教焉耳目

結後金後壇上并
衆僧持菴布施銭

詠和奇

大山王

聖脚のこしあハ踏ふ茶ハ泡乃

かづれあくらへ入や御佛

日記

秦廣王

白大レリわら彼岩榎乃くれ乃は

なづれくらへいせや御佛

日記

都市王

川らる茶湯らや登乃らてて

かづれあくらへいせや御佛

日記

轉輪王

三津川あれたら乃白とて

かづれあくらへいせや御佛

日記

初江王

東も本もあつて白向の毫ハあ

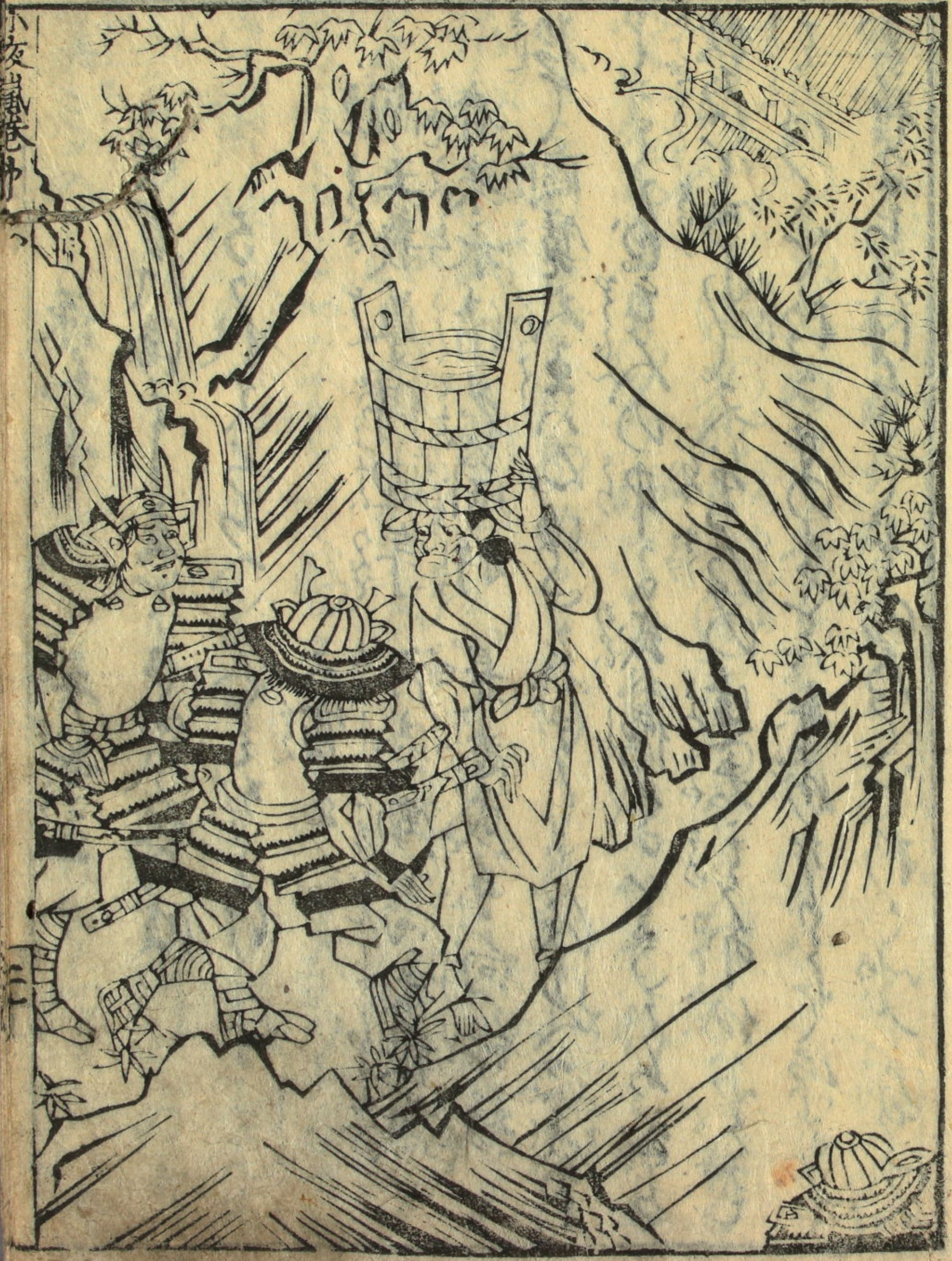
かづれあくらへいせや御佛

日記

宗帝王

あむのあそそがらてあ宗

かづれあくらへいせや御佛



孫和奇

平等王

東方の海へまよひ白の花の波
かゝれてくらへるやまのけ

入宮王

陶王義尊得廻年深志勵萬乘報謝

春來水清花開時是悉成手向結縁

忍て圖魔大玉の心地ふましくまの心は波

アミミふゆ人の中よ或は儒學とこころめ或も

飲たよちふし又もたの達者まかゆあとも

まなくとねらものまよひ奇めかまて作らそ

玉神よらうばなすてそのなととねらまふ人

磨貫之がやわがれまよひ月のかり定家のつか

まのつとまのありまのまよひまよひまよひ

跡の小町海少納言赤染右衛門なは大王入勅

命息不よまのりねまは付まふせそねら

れとまのりまのりねらまは付まふせそねら

依理の成るまのりまのりまのり

まのり又清大内記まのりまのり

智ゆまのりまのりまのりまのり

子所陣まのりまのり

まのりまのりまのりまのり

集舎のまのりまのりまのり

まのりまのりまのりまのり

まのりまのりまのりまのり

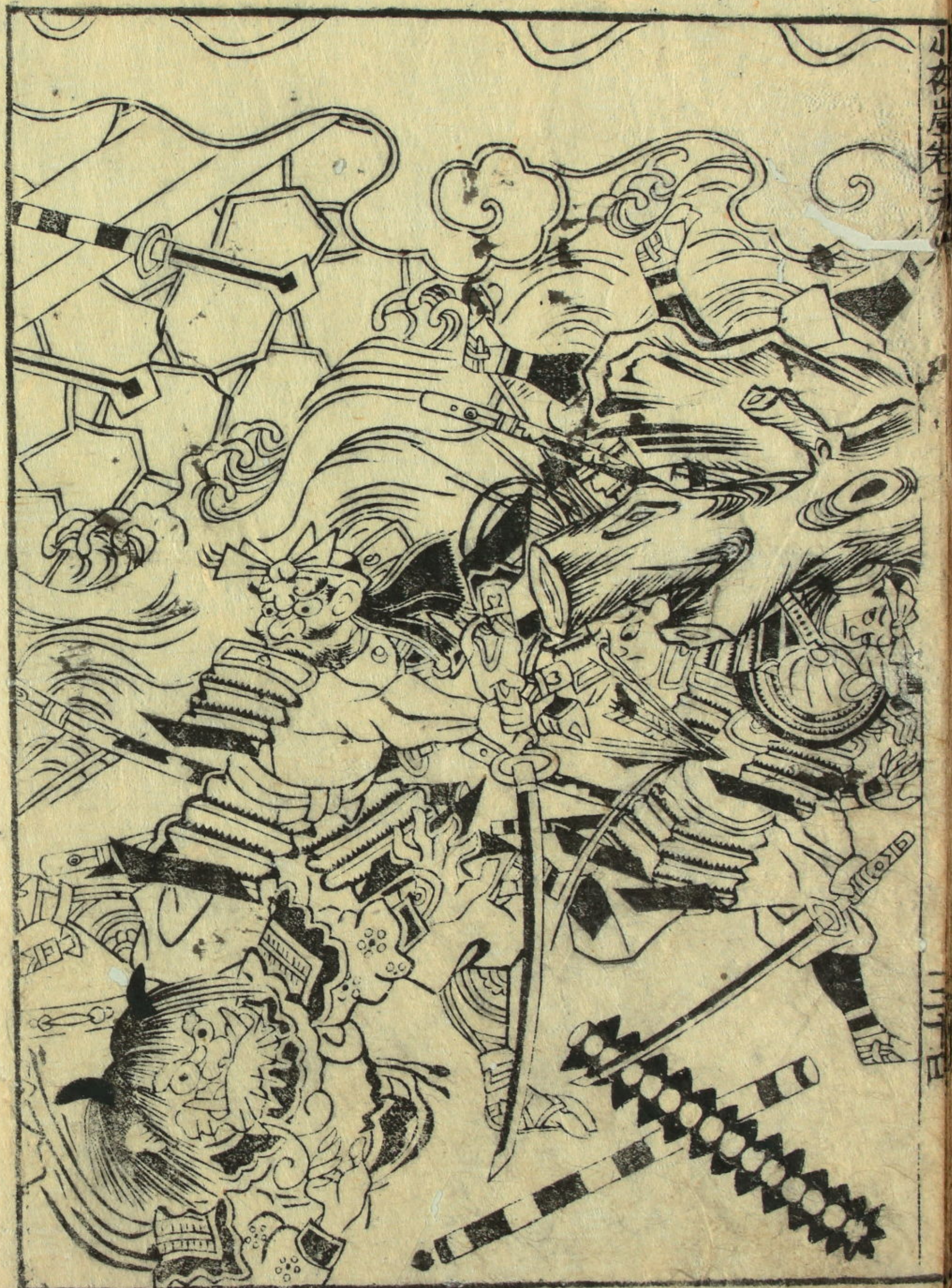
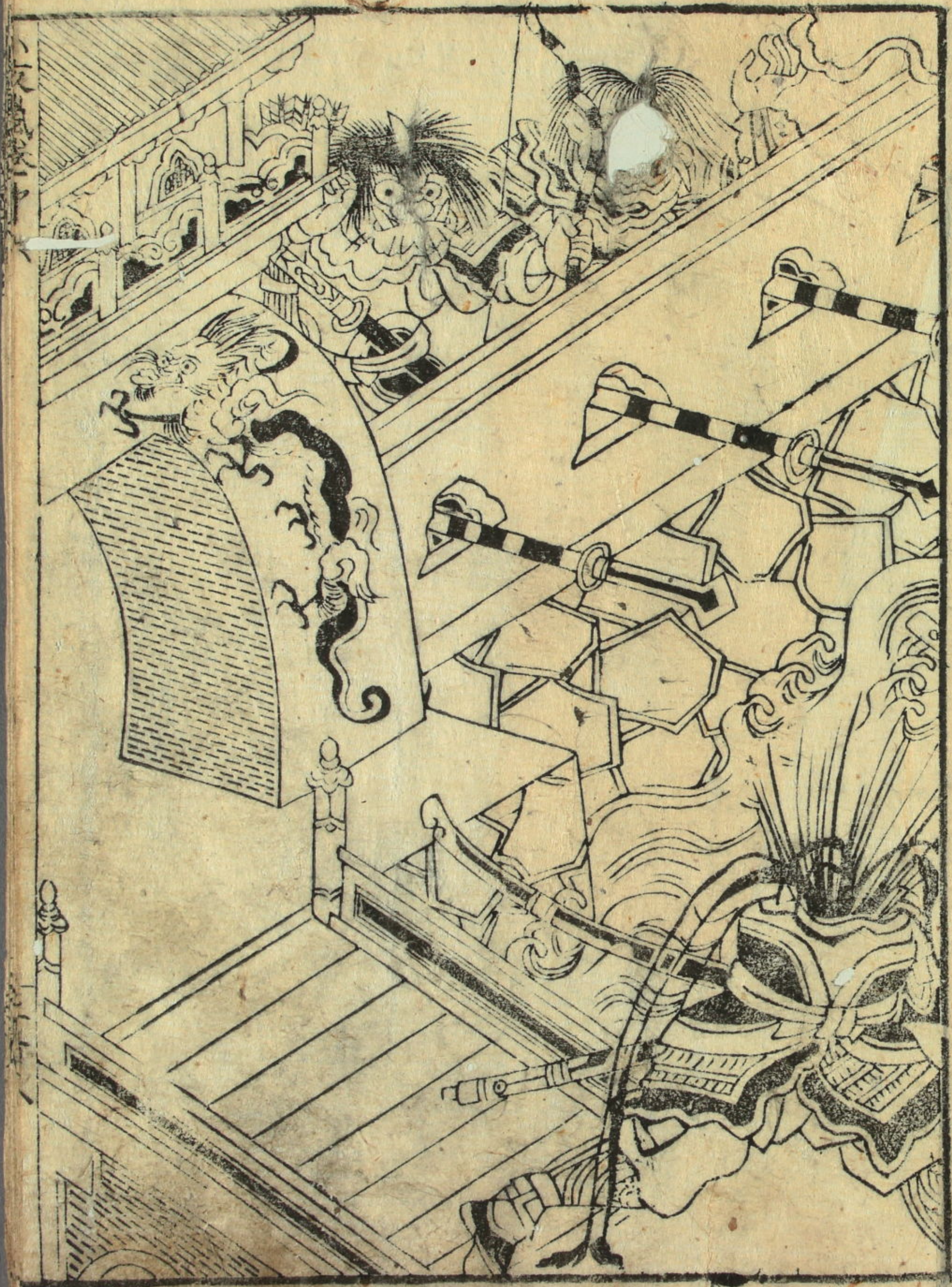
かほしやうんおわごころれ丸えりかへぬぞいふ
ひさしなぞふりく入りてくへ帝王去風閣
迎域しつふ天変あつたれ又旦と竟然とかげの
まれど紅涙濯玉瞳しり面相あつてつら
ふやひそふり上げつ天王すれはつら
がふ郷氣さるひこのか漢とやさるりく大
比りくもさるりくさるりくさるりく
山頂よさるりくけく電光さるりく
かより伝ぬ天変の剛傑とたつらさるりく
とく一車さるりくさるりくさるりく
あつてさるりくさるりくさるりく

くそめふり入るり山のふれるり九帝去風の親友
海の新経白情とまはよさるりさるり
ふぶのりくと朝日ふりくさるり
とやさるりくさるりくさるりく
でせめさるりくさるりくさるりく
新元九十三万七千金法すん比しるり
と何海と小の安産さるりく
共ねよ赤梅なびくせめさるりく
もの共糸ハ親友為るり父子主位教万務ハ軍共
ぞい度入るりくさるりくさるりく
しやさるりくさるりくさるりく

長風集

ハツモいひつらにたがひかたをたふすはまの
重しといひたれはなまかたしむる籠の口をきくも
ことんともをらんもまんもくたれよひむいとなを
こしきれよして大玉の口をばらむれどくしめ
うゆいともおしぐゆいしれは籠魔玉をえ
つばいふおの陸比もつ籠門もつ小のやまづば
こゆぐ八十丁うらつてせんまんの石とさうこ三十
丈よはぶつたを。者つめをうらむに。幅百丈の地
とりりかめとやまへ八方の堅門十方八洞指
をめぐてやいし。鉄壁もり峰と道橋
はめつあり鐵のくく虹のまじりつり。向

門のふハ半改馬改俱生所防羅新教死見
毒の矢とさげりことけつ。北高南高堅固
なり。壘つとさめ。心守度徹卒七万余見門
れちう面よ欠かみ尺半八丈石とぬひくはぞ
ようの。大丈六丈の柱本と村矢のどくまづ
け。毒の矢とさめ。矢とさげ。うはでん。あを
ぐ中よ。さけ。二丈計な心。魚見竜鱗の籠とさ
尺さりぬ太刀とさめ。さうがう。つは。鉄のり
は。さう。く。の。さ。ま。い。も。る。出。大。音。響。あ。く。の。み
を。心。の。鉄。は。是。雷。を。見。し。つ。あ。ま。く。く。さ。い。け。あ
く。大。玉。う。ら。む。大。玉。の。壘。門。と。あ。つ。な。い。ぬ。い。て。ひ



主八圖覽主とのこつりもし今いとこがひし
これ栄花よのこがづり飛人の飛移るるぞ
れあらしあそびとあまよはせ祇元八女の一ふふ
とよせ浦高らんふれ遊興のこめく口敷と遊
りまきつりれまねえとらんとて残玉の乳明
れ心よりつりべとあま下たれいばせこととら
ら不可及徹卒ホ皆とのこく機婚よはを
叩責とかんぞれよらして亡人の恨をけくま
付めく天のこあひけよらり比獄とあつり
相つかぬこいあけく指とははまこく
らとたこととたあく遊魚のつりりて口比の

飛人よ、妙なるは頭ハは後神も後合神と
めんにくと人の鯉成けぬ魔もあつらと
おろやせんらに銀の威光漢乃ち但三
人の銀をねくふひとたたのては然敵成
りりはと勇者とあつらぬ年来るの銀と
もいふはよらしてをよのまらにまらたれ
あまはと女とい付銀とまらら車とあけ
かこつり竹とあり中よはけんとてまらら
むららら。念ととんとんと川あしり
ありやけくこらして雷を鬼がおろは鉄の
鋒とかがりんとと心あつ。雷をり

じの二門をそれあつた。まゝに極楽天宮へ入
りなむとぞ。すまじれど。事ある。見え見え
くぐりよれ。むす。このまゝ。平家。の。考。松。敷。方
被。の。ゆ。り。ふ。み。一。き。り。に。た。か。く。博。入。ら。る。は
ぬ。れ。を。ま。ん。と。く。え。ん。れ。に。越。中。の。新。司。盛。俊
と。い。ふ。人。こ。も。ゆ。い。あ。ら。ま。あ。ら。ま。こ。あ。へ
る。家。の。ゆ。り。ふ。み。の。ま。ま。い。あ。ら。ま。と。い。ふ。ま。ま。か
れ。し。つ。も。あ。ら。ま。の。あ。ら。ま。の。あ。ら。ま。の。あ。ら。ま
ま。れ。ど。遺。俊。の。強。な。れ。ば。何。も。あ。ら。ま。の。あ。ら。ま
一。人。陸。上。の。あ。ら。ま。の。あ。ら。ま。の。あ。ら。ま。の。あ。ら。ま
と。い。ふ。ま。ま。の。あ。ら。ま。の。あ。ら。ま。の。あ。ら。ま。の。あ。ら。ま

と。い。ふ。ま。ま。の。あ。ら。ま。の。あ。ら。ま。の。あ。ら。ま。の。あ。ら。ま
飛。で。火。よ。入。ら。ま。の。あ。ら。ま。の。あ。ら。ま。の。あ。ら。ま
よ。う。り。ま。ま。の。あ。ら。ま。の。あ。ら。ま。の。あ。ら。ま。の。あ。ら。ま
う。し。ち。の。あ。ら。ま。の。あ。ら。ま。の。あ。ら。ま。の。あ。ら。ま
等。が。ま。ま。の。あ。ら。ま。の。あ。ら。ま。の。あ。ら。ま。の。あ。ら。ま
れ。た。大。ね。よ。越。中。新。司。盛。俊。の。あ。ら。ま。の。あ。ら。ま
甲。冑。と。い。ふ。ま。ま。の。あ。ら。ま。の。あ。ら。ま。の。あ。ら。ま
お。は。ら。ま。の。あ。ら。ま。の。あ。ら。ま。の。あ。ら。ま。の。あ。ら。ま
何。ま。ま。の。あ。ら。ま。の。あ。ら。ま。の。あ。ら。ま。の。あ。ら。ま
し。ま。ま。の。あ。ら。ま。の。あ。ら。ま。の。あ。ら。ま。の。あ。ら。ま
あ。ら。ま。の。あ。ら。ま。の。あ。ら。ま。の。あ。ら。ま。の。あ。ら。ま



とん何〜。二十は鬼切もせどののら大剛隠た
二鬼とゆんでめくつ船よるよみて我々の
さびのりさうの海へ入りあふ世界ハこく
よかりとほぞ今乃表士志りごととんれづ人の鬼
かり鬼と飛人ありとほくじくむらし
ひこありぞこし向らよ鬼ハ一鬼さのうら
大剛隠た二鬼ハ考ハ平家のゆいにいさうれ大
おのり希よのこすあつとれは鬼ととじ
ゆんハ海のもかほなるゆらよらよらびと
しけとまそ首の痛すのねあさうら〜の
漢けらせらる。残のあふさうしてあぶらわ

ありけり大怪とらこしとあふさあれ
ながれり人。盛俊のあぬのりあ
とそり〜らうもあやぶら〜人のと
〜今もぬづ〜とれ〜

才三十 曾我入高の拾遺

東方竜砂鉄の門こあつた思鬼の中に劉婆
若くはあふら長らくかほ〜とほと
か〜ぬ大あぞさかほ〜つ〜のありけり飛
人發向あつた神とら〜あ中とりのあつた
うけり。皆行ま〜とさう〜今なを〜う
ふやは〜る。皆罪人なりとせら〜か〜

かきまじり出むい人馬こころしよありひ移り
らりし無邊の海よなげ入真の志とらよかえん
らる大まに四つとぬてして竜抄門へぞかき
一玉わたりぬ津と拍入人計か何太力とられた
門のくせはつとわく大音智と何ぞうひけ
らりし是大まに八つを習朝夕とるれぢぢけ
まぬてしけり別婆者といふりのこえをけ
等ハ飛人たか何とりのすふ物具ハこのた
かぬてしよよ紫つとものこもさうてりし
まじりてこのさねよ人らさふしけり
無邊の海よなげ入人いまハ何れなけり

くはるる遺物もさるありぬが実人何
権花一日の糸と女のくじよぬるべし
罪人たやとくぢくくしサワシひほり
いんら。別婆者俱生ふしひけるハ只とせまじり
かきまじりてりしぬてしてらやさんといふ
まにまじりてなまあぞわたりけるがせいのわ
しゆらこち光録大のハ六とくちくはわい
そふいんてありはなほ家友わつれまの
まじりしよ。別婆者もや。日暮はとま何と何
しかとらぬ新とらけりあくらりしまじり
はらるるぬらぬかりし子鬼万鬼ふわたり

小文...

かりわのよのえんがは総人ごてみ人も十人そ
 取て川もよなよはまののりごあましうり
 ば先せんしひきれよころらた糶卒ごて
 わのてびごりの廣云口もかりのりいあれ
 も常くはあてさしびるもしひもなれ振
 舞もろくばかものりよららるもくおし
 ぼり廣云よりせりつはあやくもあもあ
 ああよ味方れ味方りも年れしり二十餘なり男
 ねくもくゆくもくくくくくくくくくくく
 悉て四尺八寸れ太刀とりきくくくくくく
 らるふありてささといさささささささささ

一いおひひちけら、是は海安山くが、このりので
 いらり、伊波次郎が孫川はの三郎ッ孫次郎
 こころむのといそれ、が事ぞてささささささ
 けん頼朝富士の野津村八四跡とあさみ親の
 むれ二後結常とかりひれまにいりあせ全
 助次し回事よ、敵中人もいれ入せすりあよ、
 武士よりわい、来足才とさるんとひるにさりひえ
 で、さあそれ、さあ、さあ、さあ、さあ、
 ころく、おま日大とさあ、さあ、さあ、
 じめいぶふよむひら、いひる、いひる、
 あらびれたら、いひる、いひる、いひる、

八幡屋巻之六

三十一

ふらりとかりひおんこつふまふびにけりて劉婆
 が物もかへぬりて。劉婆うらりと。あぐら
 ぶぐらぶれて少ゆるらうあて。入帝劉婆がふび
 よおけつ。あつらひらう。あつらして。あつら
 いあつら。あつら。あつら。あつら。あつら。あつら
 とあつら。あつら。あつら。あつら。あつら。あつら
 のあつら。あつら。あつら。あつら。あつら。あつら
 りて。あつら。あつら。あつら。あつら。あつら。あつら
 があつら。あつら。あつら。あつら。あつら。あつら
 をあつら。あつら。あつら。あつら。あつら。あつら
 かあつら。あつら。あつら。あつら。あつら。あつら

じくしてぞあよけり。入帝。劉婆。あつら。あつら
 よあつら。あつら。あつら。あつら。あつら。あつら
 かり。あつら。あつら。あつら。あつら。あつら。あつら
 じ。あつら。あつら。あつら。あつら。あつら。あつら
 あつら。あつら。あつら。あつら。あつら。あつら
 して。あつら。あつら。あつら。あつら。あつら。あつら
 とあつら。あつら。あつら。あつら。あつら。あつら
 であつら。あつら。あつら。あつら。あつら。あつら
 あつら。あつら。あつら。あつら。あつら。あつら
 大か。あつら。あつら。あつら。あつら。あつら
 まつら。あつら。あつら。あつら。あつら。あつら

ころのほころりし。家合^{くわい}に夜^よごとふ。八十鬼^{やそく}百鬼^{ひゃく}の
 色ぬまへらつげけく。ね。大主^{おほぬし}の御^ご儀^ぎをさく。
 門^{かど}より四^よ引^ひちりぞろ。勢^{せい}としてまをび。まこもる。橋^{はし}
 いららわや。こがく。城^{しろ}いあゆ。く。ま。ん。く。ま。ん。く。ま。ん。く。ま。ん。
 じ。く。い。ま。ま。く。矢^やら。の。と。け。ま。く。い。こ。か。く。と。三。十。
 大^{おほ}多^たる。石^{いし}垣^{かき}を。れ。は。村^{むら}の。矢^やの。蓋^{ふた}を。な。り。く。矢^や責^{せき}
 少^{すく}く。あ。せ。あ。あ。て。せ。ん。く。い。あ。く。て。ゆ。成^{なり}送^{くわ}る。さ。の。す。
 ぶ。さ。あ。く。書^{かき}も。あ。り。ま。し。る。と。夏^{なつ}を。こ。つ。て。お。月^{つき}中^{なかつ}旬^{じゆん}
 あ。も。ぬ。ま。の。り。あ。つ。ふ。又^{また}を。ら。く。こ。を。し。が。あ。ひ
 や。く。ま。し。せ。出^でた。れ。ま。あ。よ。は。ら。あ。ま。ひ。あ。ひ
 こ。あ。く。せ。だ。あ。り。と。者^{もの}さ。て。も。そ。れ。の。し。つ。い



こゝと云て本名をしらふにやまをあらわす
かゝるにやまをあらわすにやまをあらわす
こゝにやまをあらわすにやまをあらわす
こゝにやまをあらわすにやまをあらわす

小夜院巻之才六紙

大早長
米屋
栗山百子
栗山百人

